

# 「ヨーロッパにおける英語使用」 その実態と現状

仲村 芳信

## 要約

「ヨーロッパ大陸に住んでいる人々は、日常的に3ヶ国語を使って生活している」ということをよく耳にする。その3ヶ国語の中の一つが英語であるという。1ヶ国語しか話せない多くの日本人にとって夢のような話である。そのような話が事実かどうかを確かめる調査をするのがこの研究調査旅行の目的であった。この調査旅行で直接15ヶ国、95名の人々に会って調査用紙に回答を記入してもらうことに成功した。その成果を「ヨーロッパにおける英語使用」(その実態と現状)という題目で述べていくことにする。

キーワード： ヨーロッパ、英語使用、第2言語、第3言語、第4言語

## I. はじめに

筆者は、「ヨーロッパにおける英語使用」についての調査を実施した。この調査の目的は、ヨーロッパ15か国において英語がどの程度使用されているかを明らかにすることである。調査方法は、列車でヨーロッパ諸国を旅行し、車内の乗客の承諾を得てアンケートの調査項目に答えてもらう形式を採用した。この場合、英語を母語とする者を除外した。この調査は、2000年の9月1日から同15日までの期間を利用して実施したものである。調査は、ヨーロッパ15か国にまたがり、95名からの回答が得られた。この調査のもう一つの目的は、ヨーロッパでは一人でいくつの外国語を話せるかをもついでに調べることである。これについては、「EC加盟12ヶ国(1987)における外国語で会話する能力、外国語をいくつ話せるか」の調査がある。(付録参照)

## II. 本論

アンケート調査に回答を寄せた15ヶ国95名全員が3ヶ国語以上の外国語を話せることが明らかになった。4ヶ国語を話せない者は、ほんの一人だけで、95名中で94名が4ヶ国語を話せるという事実は、筆者にとって大きな驚きであったと同時に大きな感動でもあった。また、第2言語が英語と回答した者が95名中64名(69%)もいた。言い換えると、英語以外の外国語を第2言語としている者は33%に過ぎないということである。このことは、ヨーロッパにおいて英語は、第2言語として大きな比重と役割を果たしていることになる。調査対象者95名中、男性が47名、女性が48名とほぼ同数であった。(表1を参照)

表 1  
ヨーロッパにおける英語使用実態調査（国別・性別）

|         | 男  | 女  | 計  |
|---------|----|----|----|
| ドイツ     | 9  | 9  | 18 |
| オランダ    | 7  | 9  | 16 |
| イタリア    | 7  | 6  | 13 |
| オーストリア  | 5  | 6  | 11 |
| ベルギー    | 4  | 4  | 8  |
| フランス    | 2  | 6  | 8  |
| スイス     | 4  | 2  | 6  |
| ハンガリー   | 2  | 2  | 4  |
| ルクセンブルグ | 2  | 1  | 3  |
| ルーマニア   | 1  | 1  | 2  |
| フィンランド  | 2  | 0  | 2  |
| ボスニア    | 1  | 0  | 1  |
| チェコ     | 0  | 1  | 1  |
| ポーランド   | 1  | 0  | 1  |
| ユーゴスラビア | 0  | 1  | 1  |
| 合 計     | 47 | 48 | 95 |

職業別でみると、学生、専門職、会社員、弁護士、秘書、音楽科、ホテルマネージャー、コンピューターエンジニア、旅行者など多種多様であった。ここで、次の5項目について、調査結果で判明したことを統計を見ながら解説していくことにする。

## II - 1 英語学習開始年齢

英語を習得した90名の解答者の英語学習開始年齢を調べてみると、次のことがわかってきた。表2を見てみると、5歳から10歳までに英語を学習し始めた者が90名中、32名(35.5%)、11歳から15歳の間に学習を開始した者が44名(48.8%)、16歳から20歳の間に開始した者が13名(14.4%)であった。この数字からわかることは、84%以上の英語学習者が15歳までに英語学習を開始していたことになる。

表 2  
英語学習開始年齢

| 国名         | 5-10歳  | 11-15歳 | 16-20歳 | その他 |
|------------|--------|--------|--------|-----|
| ドイツ(18)    | 13     | 5      |        |     |
| オランダ(16)   | 4      | 12     |        |     |
| イタリア(13)   | 1      | 4      | 6      |     |
| オーストリア(11) | 10     | 1      |        |     |
| ベルギー(8)    | 2      | 5      | 1      |     |
| フランス(8)    |        | 6      |        |     |
| スイス(6)     | 1      | 4      |        |     |
| ハンガリー(4)   | 1 (3歳) | 2      | 1      |     |
| ルクセンブルグ(3) |        | 3      |        |     |
| ルーマニア(2)   |        | 1      |        | 1   |
| フィンランド(2)  |        | 1      | 1      |     |
| ボズニア(1)    |        |        | 1      |     |
| チェコ(1)     |        |        | 1      |     |
| ポーランド(1)   |        |        | 1      |     |
| ユーボスラビア(1) |        |        | 1      |     |
| 計          | 32人    | 44人    | 13人    | 1人  |

母国語以外に3ヶ国の外国語を習得した者が、このような形で英語学習を開始したのである。EU圏内を頻繁に国境を越えて生活を営んでいかなければならない現状において、バイリンガルだけでは不十分である。EU諸国では、生き延びていくためには、多言語、多文化習得は欠かすことができない必要条件であると言えよう。世界の都市は、他国からの移民や労働者の流入などによって急速に多言語化、多民族化へと唸るように大きく動いている。足下の日本国内の主要都市も最早例外ではなくなってきた。単一言語・単一民族・単一文化社会は、いつの日か、その活力を失い滅んでいく運命をたどっていくであろう。日本も多言語、多民族、多文化社会を受け入れることによってこそ活性化し、共存共栄の未来が切り開かれるのかもしれない。

## II-2 英語学習の場所

この調査では、95名中、76名から回答があった。表3が示しているように、英語の学習場所としては、圧倒的に「学校」と答えていて、学校教育が学習者の英語習得に大きな貢献を果たしていることが判明した。76名中、70名が学校で英語を習得している。これは、全体の92%に当たる。

表3 英語学習の場所

| 国名         | 学校  | 自宅 | その他 |
|------------|-----|----|-----|
| ドイツ(18)    | 15  |    |     |
| オランダ(16)   | 14  | 1  | 1   |
| イタリア(13)   | 9   |    |     |
| オーストリア(11) | 10  | 1  |     |
| ベルギー(8)    | 4   | 2  |     |
| フランス(8)    | 7   |    |     |
| スイス(6)     | 4   |    |     |
| ハンガリー(4)   |     | 1  |     |
| ルクセンブルグ(3) | 2   |    |     |
| ルーマニア(2)   | 1   |    |     |
| フィンランド(2)  | 1   |    |     |
| ボスニア(1)    | 1   |    |     |
| チェコ(1)     | 1   |    |     |
| ポーランド(1)   | 1   |    |     |
| ユーボスラビア(1) | 1   |    |     |
| 計          | 70人 | 5人 | 1人  |

一方、自宅で英語学習をした者は、5名で、全体の6.5%に過ぎない。しかし、このことはヨーロッパにおいては、母国語以外に日常的に家庭の中で英語を使用しながら生活していることを反映しているとするならば決して低い数字とはいえないであろう。

### II-3 英語の使用場所

英語使用については、表4で見ると、旅行先が一番多く、95名中、42名となっている。二番目は、職場で31名、三番目は、社交の場で16名、四番目は、自宅とその他の場所でそれぞれ6名ずつとなっている。人と人との関わり合いが多い旅行先、職場、社交の場が89名で延べ回答数全体の88%となっている。この英語使用調査も旅行先の列車の中で無作為に行われた。自宅で英語を使用している者は、6名で全体の約6%となっている。これは、一見低い数字に思えるかもしれないが、自宅で英語を日常的に使用している日本人は果たして何パーセントいるであろうか。

ヨーロッパでは一人で3、4ヶ国語を話すことができる者が珍しくないという中で日本はバイリンガルでさえも未だ「夢の夢」というのが現状なのである。因みにアメリカ人のおよそ25%がバイリンガルで、そのお内訳を見ると、55%がスペイン語、17%がフランス語、10%がドイツ語を話す。(USA TODAY Snapshots, April 23, 2001, p.9A) 今後、日本人が国際化社会で生き抜いていくためには、日本国民をバイリンガル市民に育てていく必要がある。このアンケート調査で、学校、自宅以外のその他の場所で英語を学習した者が一人いるが、学習場所の明記がないため特定できない。

表 4

英語の使用場所

| 国名         | 職場  | 社交  | 旅行  | 自宅 | その他 |
|------------|-----|-----|-----|----|-----|
| ドイツ(18)    | 7   | 3   | 9   |    |     |
| オランダ(16)   | 5   | 7   |     | 2  | 5   |
| イタリア(13)   | 2   | 1   | 11  | 1  |     |
| オーストリア(11) | 6   | 2   | 6   | 1  | 1   |
| ベルギー(8)    | 2   | 1   | 5   |    |     |
| フランス(8)    | 4   | 1   | 4   |    |     |
| スイス(6)     | 4   |     | 1   |    |     |
| ハンガリー(4)   |     |     |     | 1  |     |
| ルクセンブルグ(3) |     | 1   | 1   | 1  |     |
| ルーマニア(2)   |     |     | 1   |    |     |
| フィンランド(2)  | 1   |     |     |    |     |
| ボズニア(1)    |     |     | 1   |    |     |
| チェコ(1)     |     |     | 1   |    |     |
| ポーランド(1)   |     |     | 1   |    |     |
| ユーボスラビア(1) |     |     | 1   |    |     |
| 計          | 31人 | 16人 | 42人 | 6人 | 6人  |

II - 4 英語の使用頻度

表5を見ると、英語の使用頻度が50%以上は、解答者79名中、16名で全体の約20%であり、あまり高いとは言えない。10%~20%は、37名で全体の約47%であり、英語の使用頻度は一番低くなっている。30%~40%は、26名で全体の約33%に当る。他の三つの言語を使いながら英語も比較的に高い頻度で使用していることをうかがい知ることができる。英語もヨーロッパの人々にとって大切な言語コミュニケーションの手段として欠く事のできない国際語となっていると言えるであろう。英語を90%の頻度で使用している者は、3名で全体の約3.8%しかいなかった。4ヶ国語を習得して英語を90%の頻度で使用している者は、おそらく高度の専門職に就いているエリートであろうと考えられる。

表5 英語使用頻度

| 国名         | 10 - 20 | 30 - 40 | 50 - 60% | 90 (%) |
|------------|---------|---------|----------|--------|
| ドイツ(18)    | 7       | 5       | 4        |        |
| オランダ(16)   | 3       | 3       | 3        |        |
| イタリア(13)   | 7       | 4       | 1        |        |
| オーストリア(11) | 3       | 3       | 3        | 1      |
| ベルギー(8)    | 3       | 2       | 1        |        |
| フランス(8)    | 5       | 1       |          |        |
| スイス(6)     | 2       | 3       |          | 1      |
| ハンガリー(4)   | 1       | 2       | 1        |        |
| ルクセンブルグ(3) | 2       | 1       |          |        |
| ルーマニア(2)   | 1       |         |          | 1      |
| フィンランド(2)  | 1       |         |          |        |
| ボズニア(1)    |         | 1       |          |        |
| チェコ(1)     | 1       |         |          |        |
| ポーランド(1)   | 1       |         |          |        |
| ユーボスラビア(1) |         | 1       |          |        |
| 計          | 37人     | 26人     | 13人      | 3人     |

## II - 5 英語は必要か

表6からもわかるように、この質問に回答した92名の中で「はい」と答えた者は、88名で全体の約95.7%に当る。また、「いいえ」と答えた者は、4名だけで全体の4.3%にすぎない。英語は、ヨーロッパで圧倒的な支持を得ているといえよう。96%近くのヨーロッパ人が「英語は必要だ」と断言している。調査対象15ヶ国の中で「いいえ」（つまり、英語は必要ではない）と答えたのは、ドイツ、イタリア、オーストリア、フランスの4ヶ国だけで、しずれも一人ずつに留まっている。好むと好まざると英語は、現在、ヨーロッパにおいて重視され、必要とされ、「市民権」を得ていることが明らかであろう。

表6 英語は必要か

| 国名          | はい  | いいえ |
|-------------|-----|-----|
| ドイツ(18)     | 17  | 1   |
| オランダ(16)    | 16  | 0   |
| イタリア(13)    | 11  | 1   |
| オーストリア(11)  | 10  | 1   |
| ベルギー(8)     | 8   | 0   |
| フランス(8)     | 6   | 1   |
| スイス(6)      | 6   | 0   |
| ハンガリー(4)    | 4   | 0   |
| ルクセンブルグ(3)  | 3   | 0   |
| ルーマニア(2)    | 1   | 0   |
| フィンランド(2)   | 2   | 0   |
| ボズニア(1)     | 1   | 0   |
| チェコ(1)      | 1   | 0   |
| ポーランド(1)    | 1   | 0   |
| ユーボスラアビア(1) | 1   | 0   |
| 計 (92)      | 88人 | 4人  |

### Ⅲ. おわりに

ヨーロッパはEU (European Union =ヨーロッパ連合) を成し遂げ、ユーロという共通の通貨の導入に成功した。そして、その圏内で政治、経済、教育、文化活動などの協力を推進させ、より平和で、より豊かで、より健全な共同体の創造を目指している。多民族、多文化、多言語を受け入れることを通して共同体の平和と活性化と発展を促進させようとしている。このような理念がこの調査のデータで裏付けられているように思える。

日本は、明治以来、「欧米に追いつき追い越せ」を旗印に国をあげて目標達成に取り組んできた。ある面において「欧米に追いつき追い越した」現在、世界は急速にスピード化、情報化、国際化、グローバル化、多様化に向って変化しつつある。このような状況の中で、日本はアジアの一員として、また、地球市民の一員として、どのような理念を掲げて21世紀を生くべきかを真剣に論議し、それを行動に移していかねばならないであろう。平均的ヨーロッパ人が4ヶ国語を習得して使用している時代に、日本だけが、いつまでも「単一民族」、「単一文化」、「単一言語」の国に固執し続けていると、日本社会は徐々に硬直化し、国としての活力を失い、やがて崩壊の危機に直面しなければならない時が到来するであろう。そのようなことにならないためにも、時代遅れになって機能しなくなった古い制度を改め、多様性、弾力性、しなやかさのある日本社会を創っていかねばならないであろう。科学技術革新と同時に理念的・制度的革新が求められている。これは、いま、日本に突きつけられた緊急の国家的課題であろう。

付録 1

EC加盟 12ヶ国における外国語で会話する能力  
外国語をいくつ話せるか (%)

| 国名               | なし | 一つ | 二つ | 三つ | 平均  |
|------------------|----|----|----|----|-----|
| ルクセンブルグ          | 1  | 10 | 47 | 42 | 2.3 |
| オランダ             | 28 | 29 | 32 | 12 | 1.3 |
| デンマーク            | 40 | 30 | 25 | 6  | 1   |
| ベルギー<br>(オランダ語圏) | 46 | 22 | 20 | 11 | 1   |
| ベルギー<br>(フランス語圏) | 56 | 23 | 16 | 6  | 0.6 |
| 旧ドイツ             | 60 | 33 | 6  | 1  | 0.5 |
| ギリシャ             | 66 | 27 | 5  | 2  | 0.4 |
| フランス             | 67 | 26 | 6  | 1  | 0.4 |
| スペイン             | 68 | 26 | 5  | 1  | 0.4 |
| ポルトガル            | 76 | 14 | 8  | 2  | 0.4 |
| イギリス             | 74 | 20 | 5  | 1  | 0.3 |
| イタリア             | 76 | 19 | 5  | 1  | 0.3 |
| アイルランド共和国        | 80 | 17 | 3  | 0  | 0.2 |

出典：Eurobarometer, No.28, December 1987, pp.76-78, EEC

付録 2

イタリアにおける英語使用

回答：13人

|        |                            |
|--------|----------------------------|
| 学歴     | 9年-16年2人、17-20年8人、22年1人    |
| 年齢     | 20代1-30代5人、40代-50代7人       |
| 第2言語   | 英語11人                      |
| 第3言語   | フランス語5人、ドイツ語1人、その他2人       |
| 第4言語   | ドイツ語1人、フランス語1人、スペイン語5人     |
| 学習開始   | 5-10歳1人、11-15歳4人、16-20歳6人  |
| 学習場所   | 学校9人                       |
| 使用場所   | 自宅1人、職場2人、社交1人、旅行11人       |
| 使用頻度   | 10-20%7人、30-40%4人、50-60%1人 |
| 英語は重要か | はい-11人、いいえ-1人              |



ルクセンブルグにおける英語使用

回答者：3人

|        |                            |
|--------|----------------------------|
| 学 歴    | 9 - 12年1人、13 - 16年1人、22年1人 |
| 年 齢    | 20 - 30代2人、40 - 50代1人      |
| 第2言語   | フランス語1人、ルクセンブルグ語2人         |
| 第3言語   | フランス語1人、英語1人、ドイツ語1人        |
| 第4言語   | 英語2人、ドイツ語1人                |
| 学習開始   | 11 - 15歳3人                 |
| 学習場所   | 学校2人                       |
| 使用場所   | 自宅1人、社交1人、旅行1人             |
| 使用頻度   | 10 - 20%2人、30 - 40%1人      |
| 英語は重要か | はい - 3人、いいえ - 0人           |

付録 3

オランダにおける英語使用

回答者：16人

|        |   |
|--------|---|
| 学 歴    | 9 - 12年2人、13 - 16年4人、<br>17 - 20年6人、21年1人、22年1人       |
| 年 齢    | 20 - 30代11人、40 - 50代5人                                |
| 第2言語   | 英語15人、ルクセンブルグ語1人                                      |
| 第3言語   | フランス語4人、スペイン語4人、英語1人、<br>ドイツ語2人、その他2人                 |
| 第4言語   | ドイツ語2人、フランス語8人、スペイン語2人                                |
| 学習開始   | 5 - 10歳4人、11 - 15歳12人                                 |
| 学習場所   | 学校14人、自宅1人、その他1人                                      |
| 使用場所   | 自宅2人、職場5人、社交7人、その他5人                                  |
| 使用頻度   | 10 - 20%3人、30 - 40%3人、50 - 60%3人、<br>70 - 80%3人、90%3人 |
| 英語は重要か | はい - 16人  |

スイスにおける英語使用

回答者：6人

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| 学歴     | 9－12年3人、17－20年3人        |
| 年齢     | 20－30代5人、40－50代1人       |
| 第2言語   | 英語2人、フランス語1人、イタリア語3人    |
| 第3言語   | フランス語3人、英語2人            |
| 第4言語   | 英語1人、イタリア語1人            |
| 学習開始   | 5－10歳1人、11－15歳4人        |
| 学習場所   | 学校4人                    |
| 使用場所   | 職場4人、旅行1人               |
| 使用頻度   | 10－20%2人、30－40%3人、90%1人 |
| 英語は重要か | はい－6人、いいえ－0人            |

付録 4

オーストリアにおける英語使用

回答者：11人

|        |                                      |
|--------|--------------------------------------|
| 学歴     | 9－12年5人、13－16年3人、<br>17－20年3人        |
| 年齢     | 15－19歳3人、20－30代5人、<br>40－50代2人       |
| 第2言語   | 英語9人                                 |
| 第3言語   | フランス語2人、英語1人、イタリア語1人、<br>その他3人       |
| 第4言語   | イタリア語1人、英語1人                         |
| 学習開始   | 5－10歳10人、11－15歳1人                    |
| 学習場所   | 学校10人、自宅1人                           |
| 使用場所   | 自宅1人、職場6人、社交2人、旅行6人、<br>その他1人        |
| 使用頻度   | 10－20%3人、30－40%3人、50－60%3人、<br>90%1人 |
| 英語は重要か | はい－10人、いいえ－1人                        |

ポーランドにおける英語使用

回答者：1人

|        |          |
|--------|----------|
| 学歴     | 17 - 20年 |
| 年齢     | 20 - 30代 |
| 第2言語   | ルクセンブルグ語 |
| 第3言語   | 英語       |
| 第4言語   | フランス語    |
| 学習開始   | 16 - 20歳 |
| 学習場所   | 学校       |
| 使用場所   | 旅行       |
| 使用頻度   | 10 - 20% |
| 英語は重要か | はい       |

付録 5

ハンガリーにおける英語使用

回答者：1人

|        |          |
|--------|----------|
| 学歴     | 13 - 16年 |
| 年齢     | 20 - 30代 |
| 第2言語   | 英語       |
| 第3言語   | その他      |
| 第4言語   |          |
| 学習開始   | その他      |
| 学習場所   | 自宅       |
| 使用場所   |          |
| 使用頻度   | 50 - 60% |
| 英語は重要か | はい       |

ルーマニアにおける英語使用

回答者：2人

|        |                       |
|--------|-----------------------|
| 学歴     | 13 - 16年1人、17 - 20年1人 |
| 年齢     | 20 - 30代2人            |
| 第2言語   | 英語1人、その他1人            |
| 第3言語   | 英語1人、その他1人            |
| 第4言語   | ドイツ語1人                |
| 学習開始   | 11 - 15歳1人、その他1人      |
| 学習場所   | 学校1人                  |
| 使用場所   | 旅行1人                  |
| 使用頻度   | 10 - 20%1人、90%1人      |
| 英語は重要か | はい - 1人               |

付録 6

チェコにおける英語使用

回答者：1人

|        |          |
|--------|----------|
| 学歴     | 21年      |
| 年齢     | 40 - 50代 |
| 第2言語   | ルクセンブルグ語 |
| 第3言語   | 英語       |
| 第4言語   | イタリア語    |
| 学習開始   | 16 - 20歳 |
| 学習場所   | 学校       |
| 使用場所   | 旅行       |
| 使用頻度   | 10 - 20% |
| 英語は重要か | はい 1人    |

フィンランドにおける英語使用

回答者：2人

|        |                       |
|--------|-----------------------|
| 学歴     | 13 - 16年1人、17 - 20年1人 |
| 年齢     | 40 - 50代              |
| 第2言語   | 英語1人、ルーマニア語1人         |
| 第3言語   | イタリア語1人、その他1人         |
| 第4言語   | ドイツ語1人                |
| 学習開始   | 11 - 15歳1人、16 - 20歳1人 |
| 学習場所   | 学校1人                  |
| 使用頻度   | 10 - 20%              |
| 英語は重要か | はい - 2人               |

付録 7

ユーゴスラビアにおける英語使用

回答者：1人

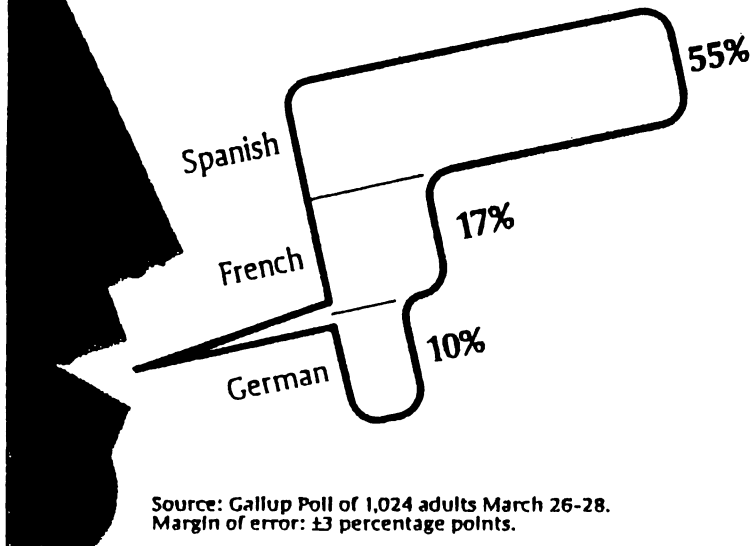
|        |          |
|--------|----------|
| 学歴     | 9 - 12年  |
| 年齢     | 20 - 30代 |
| 第2言語   | ルクセンブルグ語 |
| 第3言語   | イタリア語    |
| 第4言語   | スペイン語    |
| 学習開始   | 16 - 20歳 |
| 学習場所   |          |
| 使用場所   | 旅行       |
| 使用頻度   | 30 - 40% |
| 英語は重要か | はい       |

USA TODAY Snapshots®

P9A

**Many Americans bilingual**

One-fourth of Americans can converse in both English and a second language. Here are the most widely spoken languages:



4/23

By Sam Ward, USA TODAY  
0.1

付録 8

QUESTIONNAIRE ON ENGLISH USAGE

I am a college English teacher in Okinawa. I am interested in knowing how much the English language has been used in Europe today. I really appreciate if you could help me with answering this QUESTIONNAIRE.

- 1) Today' s date: September \_\_\_\_\_, 2000
- 2) Your birthplace: \_\_\_\_\_(country)
- 3) Your nationality: \_\_\_\_\_(country)
- 4) Gender: (Please circle one) Male Female
- 5) Years of school attendance: 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
- 6) Your age: (Please circle one) 15 16 17 18 19 20s 30s 40s 50s 60s
- 7) Your work/job/profession: \_\_\_\_\_
- 8) Your first language: \_\_\_\_\_
- 9) Your second language: \_\_\_\_\_
- 10) Your third language: \_\_\_\_\_
- 11) Your fourth language: \_\_\_\_\_(if any)
- 12) Other language(s) you speak: \_\_\_\_\_(if any)
- 13) At what age did you start learning/speaking English? Age: \_\_\_\_\_
- 14) Where did you start learning English? \_\_\_\_\_
- 15) Where do you use English most of the time? (Please circle one): home at work  
socials/parties travel other(please indicate) \_\_\_\_\_
- 16) What is a ratio of the use of English for you to that of your native language? (Please circle one) 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90%
- 17) Is the English language important to you? (Please circle one) Yes No  
Please list up some reasons why you think “yes” or “no” .  
①→  
②→  
③→

参考文献

G. ホフステード、岩井紀子・八郎訳。「多文化世界」。有斐閣。東京。1997年  
USA TODAY Snapshots, Many Americans bilingual, April 23, 2001